

吉野復興大臣の岩手県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年10月28日(土) 15:45～15:50 於) 宮古市)

1. 発言要旨

本日は宮古市を訪問いたしました。「鍬ヶ崎・光岸地のまちびらき記念式」に出席いたしました。その後、この「たろう観光ホテル」を訪問したわけであります。鍬ヶ崎・光岸地地区においては、今年5月以来、2回目の訪問でございます。土地区画整理事業が進んで、道路や住宅も着実に姿を現しております。本日、まちびらきを迎えられましたことは、本当に喜ばしいことだと思っております。

その後、このたろう観光ホテルを訪問しました。このたろう観光ホテルは、震災遺構の一つとして宮古市により保存をされております。津波によって6階建ての建物が4階まで浸水し、1・2階は御覧のとおり鉄骨しか残っていない状態でございます。震災の風化が懸念されておりますが、このように津波の脅威を間近で感じられる建物が残っていることは、風化を防ぐ意味でもとても意義深いものだというふうに思っております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 前回、御自身の目で鍬ヶ崎を御覧になった時からまた時間が経って、そして一つの節目を今日迎えたわけですが、関係者の他にも地域住民の方がたくさん出席されていて、そのお顔も表情も御覧になったかと思うんですが、その感想を改めてお願いします。

(答) 今日は、鍬ヶ崎小学校の3年生・4年生の皆さんが、式典の前に賛歌、歌を歌ってくれました。これは記念式典、色々と節目節目の記念日に歌うという、校歌ではなくて小学校賛歌ということで、本当に歌詞を聞かせてもらおうと元気の出るおめでたい歌だなと、こういう歌が鍬ヶ崎小学校には100周年を記念して作られたそうなんですけども、百四十何年という長い歴史を持つ小学校でございますので、本当に「大震災、大津波にも負けないで頑張るぞ」という子供たちの元気な姿を見ることができて、大変心強く思った次第です。

(問) まちの変化、鍬ヶ崎のまちの変化についてはいかがでしょうか。

(答) 今日は記念式というイベントでございましたが、ラウンド・アバウトという信号機のない、あの施設を中心にすばらしいまちづくりを、山本市長さんはじめ関係者の方々はやっているんだなと、そういう思いです。

(問) 質問は変わりますが、11月1日にまた組閣されますけれども、

そのまま皆さんが再任されるのではないかと見られていますが、改めてその抱負がございましたらお願いします。

(答) まだ総理から何らお話はございませんけど、マスコミによっては留任、再任ということがございます。私も被災地の代表として、再度復興大臣に御下命があれば、本当にうれしい限りでございまして、これからも被災地の代表として、やはり被災地の代表でなければ見えないところがあります。その辺をきちんと物を申していきたい、このように考えています。

(問) まだ再任が決まってないということなんですけども、政府の定めた復興期間ですと復興庁の設置期限が、そろそろ迫っている中で、どのように今後予算を確保して事業を進めていくのか、抱負と重なる部分もあるんですが、改めてお願いします。

(答) 残された時間は3年と少ししかございません。この期間中に、特に復興道路・復興支援道路、また、区画整理事業、復興住宅等々整備をしなければならないものがたくさんございます。責任を持ってこの3年と少しの間で復興庁として努力する、きちんと完成させると、そういう意気込みで今、叱咤激励をしてるところです。

(問) もう一点なんですけど、先日、衆院選が終わりました、岩手県の被災地の例えば仮設で暮らしてる方々の中には、何でこの時期に多額のお金がかかることを、また報道では大義は何だとかかなり言われてましたけども、今回の選挙に対してそのような声があることについてどのように受け止めて、今後その意味をどう持たせていくのかお願いします。

(答) 解散は総理の専権事項でございまして、我々がどうのこうのということとはできないわけでありまして、そこについてのコメントは差し控えたいと思います。

(問) この選挙が何だったかという意味を持たせる中で、この「復興」というのは一つの鍵になっていくんじゃないかと思うんですが、その点についていかがですか。

(答) 復興に切れ目があってはいけませんので、選挙期間中といえども毎日秘書官から電話連絡、そしてメール等々を頂きました。私自身も選挙期間中でありまして、公務をこなしてきたところでもあります。ですから復興については、選挙があろうともなかろうとも切れ目のない復興行政ができたなど、このように私は考えております。

(問) 切れ目のないというのは、今後ももちろん続けていくと。

(答) 当然です。ありがとうございます。

(以 上)